

教育研究所だより



令和3年10月1日 NO.90



あやしい情報に振り回されていませんか

～気づきから考えていきましょう～

栗東市教育委員会事務局 人権教育課
課長 岸田 修

新型コロナワクチンの副反応について、みなさんはどのように考えましたか？

私は、効果とリスクを理解したうえで、あとは副反応の生じる確率を参考に自分で判断すれば良いと考えています。でも、この「効果」と「リスク」と「確率」に関する情報をどこから得るのが問題です。私の場合は、日常的に得る情報は報道番組や新聞、インターネットからです。報道番組や新聞からは、ほぼ同じ情報を得られましたが、インターネットでは、さまざまな情報が提供されていました。

そのインターネットでの情報の示し方に疑問が生じるようなものがありましたので、その例から考えたことを紹介します。ワクチンについては、肯定的な捉え方の人もいれば、もちろん否定的な人もいます。お互いの意見を尊重し認め合うことは、人権の観点からも大切なことです。ワクチンなので一定割合の副反応があり、心配がないとは言えないので判断は個人になると思います。ただ、情報の示し方に疑問があるような記事が、閲覧回数・再生回数が伸びて上位に示されていることもあるので注意が必要です。

ここから、実際にあった我が家でのやりとりを紹介します。

妻「ネットの情報なんやけど……。このグラフ見てみて。なんか、ワクチンの解説してるみたいやけど、ワクチンを打ったことでこんなにたくさんの方が亡くなってるんやろか？」
私「こんな数があがってたら、もっと大騒ぎになってるはずやし、なんかおかしいな。」

妻「でも、厚生労働省の数値だって書いてある。ちょっと、検索してみよう。」

妻「同じ数字はあるわ。うーん。」

私「うん。同じ数字やな……。でもじっくりこおへんなあ。」

—なぜ、違和感があるのだろうか？—

このあと、少し考えて違和感の正体に気づきました。実は、このインターネットの情報は、あたかもワクチン接種したことが、亡くなったことに直結しているような記述になっていたのです。でも、ここで使われた数値は、ワクチンをこれまでに接種した人で亡くなった方（原因は、副反応とは限らない）のものだったのです。※厚生労働省のサイトでは、この違いは明記されています。一方、国内の接種した人数は膨大です。この違和感のあった記事では、確率という全体つまり「分母」に当たる数値を見せずに、該当数つまり「分子」だけを見せるという表現にもなっていたのです。

情報の提供者が、このことに気づいていないのなら極めて断片のみを強調したことになりますし、理解しているうえでミスリードを誘っているのなら悪質な情報をわざと提供していることになります。

気が付かなければ、判断材料として「適当ではない情報」が我が家に侵入していたのかもしれないと思うと、改めてインターネットの情報を扱う際には、慎重さや冷静さが必要なのだと感じた一件でした。

これまでも、さまざまな機会にインターネットの情報に関して学ぶ機会がありましたが、私自身が違和感を感じて、考えて、自分で「おかしい」と気づいたのは初めてかもしれません。「おや？」と感じたことを「考える」につなげることは、やっぱり大事なのだと思いました。



初任者研修 奮闘記②

～栗東市初任者研修・小中学校編～



○「担任として大切なこと」のお話が心に残りました。授業については、子どもたちの様子や状況を見て言葉や手法を変えること、学級経営に関しては、自分のことを子どもたちがどれくらい知っているか、お話を聞きながら今まで出会ってきた子どもたちの顔が浮かんできて、今まで積み重ねてきたものをいかして、これから出会う子どもたちと素敵な時間を過ごしていきたいと思いました。

○教員としてたくさんの悩みがあるが、一人で抱えていると時間の経過と共に状況がどんどん悪化したり、他の先生や生徒に迷惑がかかるので、早めに誰かに相談したり、情報を集めたりする必要があると学んだ。

『栗東市の教職員として』

【講師】

栗東市教育委員会事務局
学校教育課 田中 寛 課長



『教職員の服務』

【講師】

栗東市教育委員会事務局
学校教育課 高野 崇 参事



○一番印象的だったのは「疲れた顔で子どもと接することがないように、休むときはしっかり休む」ということです。最近は帰る時間が遅かったり、休日でも学校のことを考えたり、なかなかフレッシュできていないため、仕事と休みのオンとオフをしっかり切り替えて学校で明るく元気に務めたいと思いました。

○学級経営が難しいなと感じていた5月頃、自分の国語の授業でいつもよりちょっと盛り上がったと思ったら、その後、学級の雰囲気もよくなったと感じました。授業の雰囲気、出来が生徒との関係性にも影響すると、今日の講話、3か月での経験で実感したので意識して授業づくりをしていきたいです。

○先生が子どもの視点から雲の上の存在として見られるのではなく、良い距離感で接することができるように、日々学び続けて、模索していこうと思いました。

○自分が普段当たり前の生活のように職務に取り組むことができるのは、事務支援センターによるシステムの構築や管理に助けられているからだということがよく分かりました。また、負担を軽減できてまもなく、学校での課題は多く、その課題に対してあきらめずに努力し続けていく情熱が必要であることを学びました。

○福利について、あまり知ることがなく、調べることもできていなかったのでよい機会になりました。

○自分が勤めている学校の事務職員さんにも諸手当等の手続きでもお世話になっていますし、その手続きで分からないことがあったらとても丁寧に教えていただいています。

『事務支援センターの役割』

【講師】

栗東市立大宝東小学校
國松 厚子 主任事務主査



○私の学級にも、学習面に困り感を抱える子どもがおり、日々どうしたらもっと学びやすくなるのだろうと悩んでいます。ことばの区切りの話で、読むことをして見て、こんなに読みづらかったら、読むのが嫌になるな、訳が分からないなと思いました。もっと、子どもの目線に立ち、支援の手立てを考えていかなければいけないなと思いました。

○特別支援教育について、これまで学習もしてきたが、実際に現場に出て実践してみるとうまくいかないことも多い。また、それらの支援が本当にその児童に合っているのかも分からないときがあった。今回の講義で、様々な支援のあり方や、その周りの児童への関わり方、声かけ等を学んだ。本人に寄り添い、いろんな面からアプローチをしていきたい。

『特別支援教育について』

【講師】

栗東市立治田小学校
平野 亜希子 教諭



『これからの生徒指導』

【講師】

栗東市教育委員会事務局
学校教育課 吉川 寛 指導主事



○支援を行う中で、その子どもの様子から、その行動を起こしてしまう背景・原因を読み取れるかが重要だと感じた。もし、自分のクラスに問題行動があった時には、相談を意識しながら向き合っていきたい。そして、一人で対応するのではなく、関係機関と協力して、解決に向けて一生懸命取り組んでいきたいと思う。

○いじめを認知した時は、事案について丁寧に聞き取ることや管理職とどうしていったらよいか話し合っていくことが大切だと思いました。一人ひとりの支援を考える際には、自分一人の考えではなく、周りの先生と話し合うことでよりよい方法がうかぶかもしれないので何事も相談することを忘れないようにしたいです。

○私も、大事な日の朝は、すぐに目が覚めてしまいます。今日は、初めて同じ初任の先生と話せて、とてもうれしかったです。お互いの話をしているときりがなかったです。自分一人で抱えきれなくなる前に、仲間や先生方に相談して、頼りながら、がんばりすぎずにがんばりたいと思います。

○講師経験はありますが担任したことはなく、今年初めて担任をもって、初めて気づくこと、知ることがたくさんありました。また、クラスの生徒について、いろんな人と関わることも多くありました。今までより密に生徒に関わって、子どもたちがどんなことを思っているのか、悩んでいるのか、知る機会も増えて、私自身が悩むことも多くなりましたが、一緒に楽しむことも多くなりました。学級経営としてうまくいっているのかまだ分かりませんが、一人でも多くの生徒と関わってお互いを支え合えるような学級にしていきたいと思っています。

『わたしの学級経営』

【講師】

栗東市教育委員会事務局
学校教育課 石田 智香子 課長補佐





自分たちの園は自分たちできれいに！

栗東市立治田東幼稚園

掃除の時間になると子ども達が自主的に子ども用のほうき、ちりとりを持ち「お掃除するよ!」と掃除を始めます。靴箱掃除では、1マスずつ丁寧に細かな砂やほこりをほうきとちりとりでしっかり集めて、「こんなに砂が入った」と集めた砂等を見せ合っています。掃除後は、「きれいになったね!」「気持ちがいいね」と友だちや保育者と一緒に、きれいになったことを共に喜んでいます。

また、園内のトイレのスリッパがきれいに並んでいると気持ちがいいと子ども達を感じられるよう、片付けるところに印をつけています。「トイレをきれいに使おう」「脱いだスリッパをきれいに並べよう」と子ども達が使った後のスリッパを自主的に並べることができるようになってきました。

このように掃除や整頓をすることの気持ちよさや「もっときれいにしよう」と感じられる毎日を過ごしています。子ども達が自主的に身の回りをきれいにしようと思う気持ちをこれからも大事にしていきたいです。



温かで たくましい 大西っ子! ~人権文化の満ちた学校~

栗東市立大宝西小学校

~2021年度十里まちづくり学習・部落差別問題学習・人権学習年間計画~

大宝西小学校では今年度も、十里まちづくり学習・部落差別問題学習・人権学習を計画通り進めていく予定です。大宝西小学校では、「人権学習(部落差別問題学習の基礎となる力を育てる学習)」と「部落差別問題学習・まちづくり学習」の2本柱で学習を進めています。

「十里まちづくり学習・部落差別問題学習」

・十里まちづくりの学習・部落差別問題学習

「人権学習(部落差別問題学習の基礎となる力を育てる学習)」

- ・生命の大切さを知る(性教育・保健・平和学習)・自尊感情を育てる
- ・他者理解、仲間づくり(障がい者・郷土・高齢者・外国人・友だち・その他)
- ・差別への気づき(性別・障がい者・外国人・友だち)

また、「人権・同和教育の視点に立った学年のめざす子ども像」は以下の通りです。

- ・1年生 みんなと仲良くできる子ども
- ・2年生 みんなと仲良く助け合える子ども
- ・3年生 お互いに助け合い、励まし合える子ども
- ・4年生 お互いに助け合い、良さを認め合える子ども
- ・5年生 相手の立場を認め、共に伸びようとする子ども
- ・6年生 相手の立場を認め、互いに高め合おうとする子ども

各学年の子どもの発達段階に合わせ、系統的に学習を積み重ねていきます。



栗東市立
教育研究所

